

ONE TEAM「新政あいち県議団」 withコロナのあいちで「声を形にする」県政の推進

令和3年度が始まり新政あいち県議団は富田昭雄(名古屋市名東区 5期)を団長に選出し、新たな体勢で「ONE TEAM」を掲げスタートしました。

緊急事態宣言の延長と共に始まった今年度は、6月までにコロナ対策の補正予算を編成する臨時議会が5回召集され、合計2,208億余円のコロナ対策等の補正予算を審議、可決しました。また、この間、5月18日には、ワクチン接種の加速について、低所得のひとり親世帯への支援について、6月18日にはワクチンを接種しない個人がいかなる不利益を被ることの無いように体制の構築など2度にわたり大村知事に要望書を提出しました。

5月27日に召集された臨時議会ではコロナ関連補正予

算と同時に今年度の県議会議長、各委員会の構成などの議会人事を選出しました。

また、6月17日から7月6日の日程で6月定例議会が開催され、670億余円の補正予算をはじめ27議案を可決成立させ、退任された青山副知事に代わり佐々木菜々子副知事を選任しました。

コロナにより変容を余儀なくされた多くの皆様、大きな犠牲を払いながらコロナ感染抑止にご協力いただくすべての県民の皆様の声をしっかりと受け止め、その声を形にするために新政あいち県議団一丸となって県政を進めてまいります。引き続きのご理解とご協力、そしてご支援をお願い申し上げます。

不安から安心へ



新政あいち県議団
副政務調査会長
松本 まもる

まずもって、七月三日午前静岡県熱海市伊豆山地区で発生した、大規模な土石流によってお亡くなりになられた方々また被害を受けられた住民、関係者の皆様にお悔やみとお見舞いを申し上げます。

今回の災害によって大勢の大切な命が奪われ、また未だに行方不明の方々がいらつしやうご家族、関係者の方々は今もなお、辛い思いでお過ごしだと思います。

どうか、現在も行方不明者の方々が一刻も早く発見されることをお祈りするばかりであります。

また、先の六月二十八日に、千葉県八街市朝陽小学校区内通学路で発生した、トラックによる交通死亡事故で被害に遭われた児童と、保護者をはじめ関係者の皆様にもお悔やみとお見舞いを申し上げます。

このように、様々な大きなニュースが立て続けに発生した状況下で今回はこの欄でコロナ禍の話はやめようと考えましたが、やはり外すことはできない様子です。

六月二十一日から「緊急事態措置」から「まんえん防止等重点措置」に移行されましたが、中身は相変わらず何が違うのか、よくわからないままの生活が続く、東京都ではリバウンドと考えられる感染者数も再び増加し、四回目緊急事態宣言が発出されることになりました。

愛知県においても「まん防」解除後も引き続き飲食、特にお酒の提供についてさらなる規制のお願いと県民の皆様にもご協力を再びお願いしている次第で心苦しいばかりです。

この議会だよりをお届けさせて頂ける頃は、開催の賛否が最後まで問われたオリンピックも緊急事態宣言が発出されているにも関わらず、開催され、選手団のキャンプ地などでは、不安を抱えつつも、それなりに盛り上がりつつあるのではないかと思います。

スポーツを通じて世界各国が絆を深めるこのオリンピック事態に異論を唱えるつもりはありませんが、下げ止まりの兆候が見られないコロナ禍の感染状況、また毎年日本の各地を襲う台風をはじめとする豪雨災害や、猛暑酷暑と数えれば私たちの置かれている状況は近年まれにみる厳しい状況になっています。そして大切な事項の一つに地域経済の復活と再生です。

飲食以外にも疲弊し、まさに虫の息になっている、インフラ関係を中心とした各種産業の一刻も早い立て直しと、コロナ禍で職を失った方々の早期労働現場復帰と早期に解決が迫られる課題は山積しています。

このような社会情勢の中でオリンピック開催後の日本がどのような状態になるか、また諸外国から大勢の選手をはじめ、無観客化としながらも関係者が来日し、コロナ禍・非常事態宣言のさなかに開催されたオリンピックに様々な思いを各国に持ち帰ることでしよう。

願わくは、オリンピック・パラリンピック閉会后に、マスクを外して生活が出来る日が一日も早く来ることを願わずにはられません。

新政あいち県議団 代表質問から

(6月21日 本会議)



河合 洋介
総務会長
(知多郡第一、3期)

主な質問① 新型コロナウイルス 感染症の克服について

Q ワクチン接種の長期化を見据えた医療従事者の確保について、またコロナ陽性患者のうち、無症状、軽症の方々の取り組みを伺う。

知事 医療従事者の確保は、今後64歳以下の接種に移り、長丁場となる。現状の2会場に加え、名古屋市内と三河地域に開設する、新たな5か所の大規模集団接種会場では、大学病院、厚生連の県内8か所の病院、民間の医療人材派遣会社等の協力を得て、接種体制の確保を長期的に取り組む。無症状者及び軽症者については、原則、宿泊療養施設への入所を案内しているが、自宅療養を選択される方が多い。宿泊療養施設の利用促進のため、看護師が24時間常駐し、体調急変時に迅速な対応が可能である事

など、利点を丁寧に説明し、宿泊療養向け「生活のしおり」も作成、不安の解消に努めていく。

自宅療養者に対し、血中酸素濃度を測定できるパルスオキシメーターの貸出しの他、配食サービスによる生活支援を拡充する。新たに、体調急変に備え、地域の医療機関や訪問看護ステーションと連携し、電話診療や往診、訪問看護などを提供できる体制を整備する。

主な質問② 行政手続のオンライン化と キャッシュレス化を実現へ

Q DXの推進のため、キャッシュレス化を含んだ行政手続のオンライン化が必須だと考えるが、どのように取り組まれるのか伺う。

知事 2025年度までに県内のオンライン化可能な手続の100%オンライン化を目指す。また書類の添付や対面での審査などが必要ない手続について、今年度中に全てオンライン化実現を目指し、全庁を挙げて重点的に取り組む。DXには、キャッシュレス決済への対応は不可欠であるので、必要となるシステムや、導入する収納事務の検討を進める。

主な質問③ 全国初、中部国際空港ICに 逆走探知機を導入

Q 有料道路コンセッション方式導入から5年が経過する。積み重ねた成果と、アフターコロナを見据えた今後の取り組みを伺う。

知事 愛知道路コンセッション株式会社によって適切に維持管理が行われおり、大府及び阿久比PAも一新されるなど、民間ノウハウの活用も順調である。

さらに、ベンチャー企業等が先進技術を実証する場として「愛知アクセラリートフィールド」を2018年から運用し、21件の実証実験が行われた。このうち、誤進入する車と人を区別できる「三次元レーザレーダを用いた逆走探知システム」を我が国で初めて、今秋セントレア東ICに導入する。今後は、来春完成予定の大府PA下り線の整備を始め、阿久比PA上り線及び武豊北ICの新設などを行う。また、民間事業者提案の賑わい施設の整備なども円滑に進むように地元との調整も行うなど、民間の創意工夫による成功実績を積み上げ、「愛知モデル」として広く発信していく。

主な質問④ LGBTQ等への理解 同性パートナーシップ 制度導入に向けての議論を

Q 性的少数者に対する理解促進に向けた取り組みと、同性パートナーシップ制度導入に向けた議論について伺う。

知事 性的少数者の方々は、自らの性的指向や性自認(SOGI)に対する無理解や差別、社会生活上の制約など様々な問題に苦しんでいる。こうした差別や偏見をなくし、正しい理解と認識を深める必要があると考える。性的少数者への理解促進を重要課題と位置づけ、必要な施策を実施していく。

同性パートナーシップ制度について、制度の導入には様々な意見がある。広く県民に理解され、経済活動や暮らしの各分野に波及していくには、何より、性的指向や性自認に対する正しい認識を深めることが不可欠である。パートナーシップ制度の先行事例を検証し、制度について研究していく。

新政あいち県議団

一般質問から

質問の詳細は愛知県議会ホームページ

がん予防のチェックリスト作成検討へ



長江正成議員
(瀬戸市、4期)は、がん防災チェックリストをがんに対する本県施策に取り入れるべきと指摘し、このチェックリストを参考に、愛知県独自のチェックリストを作成する考えがあるのか質問をした。

医療サービスなど必要な情報をリストに従って事前に整理し、各自が一つ一つチェックすることにより、がん検診の受診促進や、万が一が起きたときも慌てずに適切な行動を起こす一助になるため、大変有用な取組と認識している。今後は、がん専門医等から構成される、健康づくり推進協議会が対策部会などにおいて、関係者等の意見を伺いながら、議員指摘の本県独自のチェックリストの作成を検討する。

安全・安心な愛知めぐり



福田よしお議員
(日進市・東郷町、2期)は、災害から県民を守るため「避難対策」「トイレ対策」など県の取組を質し、「トイレ対策」一本化により避難制度が「避難指示」一本化により住民の主体的な避難行動に結びつくように周知徹底し、福祉避難所を活用した個別避難計画の作成を市町村としっかり取り組む。トイレ対策は自助として携帯トイレ1人5回/日

を3日から7日分備蓄するよう啓発する。県営都市公園の整備は、全庁や地元市町村に要望を確認して防災機能を取り込むようにする。交通安全対策は道路横断の事故を1件でも無くすため、運転者には歩行者保護意識を高め、歩行者には自らの命を守る行動を促すため、新たに「ハンドアップ運動PR隊」を結成し「歩行者が横断するとき手を挙げ運転者と意思疎通を図る」活動を展開すると答えた。

愛知県としての献血への協力体制について



安井伸治議員
(港区、2期)は、コロナ禍において献血者数が4月に計画を下回っていることから、現状を確認し現在、支障なく供給できているとの回答を得た。また15年前と比較して、16歳から39歳までの若年層が40%以上減少していることへの対策として、若年層向け各種献血キャンペーンやSNSにより積極的に働きかけ

を行うとの回答を得た。また、現在新型コロナウイルスワクチン接種が進む中で、一時ワクチン接種者からの献血を中止し、献血者の減少が心配される中、接種48時間経過後は献血可能という判断がなされたため、接種者に対し積極的に献血への協力を呼び掛けているべきとの要望に対し、ワクチン接種会場での献血協力の掲示やSNS、市町村へも協力を呼びかけ、血液不足による医療崩壊を起こさないとの回答を得た。

飲食店営業規制の根拠とは?



西川厚志議員
(中川区、5期)は、同僚の黒田太郎議員の考察と提言に基づき「本当に飲食店はコロナ感染源なのか?」について県の見解を質した。感染症対策局長からは「本県の判明した感染経路別の割合は①家族26.0% ②医療福祉施設8.0% ③職場6.8% ④会食3.2% ⑤接待を伴う飲食店1.8%等々のデータ

は明らかにされたものの、その是非については言及されず、国の基本的対処方針に従うのみとの答弁に終始した。特にオリンピック開催にあたっては飲食店経営者の感情を逆なでするような報道ばかりが連日伝えられるが、愛知県として今後新しい認証制度を導入し、営業許可のあり方を議論して行く際には、良識ある判断基準に依るよう要望。他、来春72年の歴史に幕を下ろす「名古屋(土古競馬)」について愛惜の質問。

中小企業等へのテレワークの導入支援について



嶋口忠弘議員
(安城市、2期)は、県下全域の中小企業等に対するテレワーク導入支援について質問し、労働局長か

ら本年4月に開設した「あいちテレワークサポートセンター」における相談体制やセミナーについて、知事からは、テレワークに慣れていない中小企業を対象に、専門家派遣などきめ細かい支援メニューを用意する

とともに、テレワークを体験していただくためのモデルオフィスを8月に開設し、引き続き、コロナ禍において人の流れを抑制し、多様で柔軟な働き方が実現できるよう、テレワークの導入と定着にしっかりと取り組み、誰もが安心して生き生きと働き

続けられる職場環境づくりを進めていく考えが示された。加えて、嶋口議員は、次世代産業の育成・振興の観点から、自動車産業・ロボット産業の取り組みについても質問した。

令和3年度 新政あいち県議団議会役員等

●新政あいち県議団役員

団 長	富 田 昭 雄 (名 東 区)	副 幹 事 長	安 井 伸 治 (港 区)
副 団 長	永 井 雅 彦 (刈 谷 市)	副 総 務 会 長	小 木 曾 史 人 (あま市及び海部郡)
幹 事 長	森 井 元 志 (守 山 区)	副 政 策 調 査 会 長	松 本 ま も る (緑 区)
総 務 会 長	河 合 洋 介 (知多郡第一)	監 事	黒 田 太 郎 (千 種 区)
政 策 調 査 会 長	日 比 た け ま さ (春 日 井 市)	監 事	鳴 海 や す ひ ろ (中 村 区)
常 任 顧 問	塚 本 久 (北 区)		

●議会役員等

常任委員会	総務企画(5)	理事長	長江正成	西川厚志	森井元志	天野正基	おおたけりえ		
	県民環境(4)	理事	谷口知美	富田昭雄	佐波和則	日比たけまさ			
	福祉医療(4)	副委員長	福田喜夫	理事	塚本久	鈴木まさと	河合洋介		
	経済労働(4)	委員長	黒田太郎	理事	安藤としき	安井伸治	桜井秀樹		
	農林水産(4)	委員長	渡辺靖	理事	鈴木純	小山たすく	朝倉浩一		
	建設(4)	副委員長	小木曾史人	理事	水谷満信	樹神義和	嶋口忠弘		
	教育・スポーツ(4)	理事	高木ひろし	高橋正子	久野哲生	松本まもる			
警察(4)	委員長	鳴海やすひろ	理事	かじ山義章	西久保ながし	永井雅彦			
特別委員会	議会運営委員会(5)	副委員長	永井雅彦	理事	森井元志	理事	日比たけまさ	富田昭雄	河合洋介
	行財政改革・地方創生調査(4)	理事	高橋正子	富田昭雄	朝倉浩一	おおたけりえ			
	産業イノベーション推進(5)	副委員長	鈴木まさと	理事	安藤としき	西川厚志	西久保ながし	永井雅彦	
	安全・安心対策(4)	委員長	天野正基	理事	かじ山義章	黒田太郎	小木曾史人		
	人づくり・福祉対策(5)	委員長	谷口知美	理事	森井元志	小山たすく	樹神義和	福田喜夫	
アジア競技大会調査(4)	副委員長	嶋口忠弘	理事	鈴木純	水谷満信	桜井秀樹			
一部事務組合	競馬(3)		塚本久	日比たけまさ	渡辺靖				
	競輪(3)	議長	久野哲生	河合洋介	松本まもる				
	名古屋港(5)	副議長	高木ひろし	監査委員	長江正成	安井伸治	佐波和則	鳴海やすひろ	
審議会	政治倫理審査会(5)	副会長	高木ひろし	高橋正子	鈴木純	長江正成	久野哲生		
	屋外広告物(1)		佐波和則						
	都市計画(2)	常務委員	谷口知美	渡辺靖					

県政 TOPICS

ONE TEAM 全員でコロナ禍の問題に取り組めます!!



新型コロナウイルス感染拡大が止まらない状況の中、まずはワクチン接種を皆様にお願ひし、感染拡大を防止しなければなりません。これからは、まだコロナウイルスと付き合いながら、生活の基盤となる経済を廻し、教育、文化、スポーツといった人間らしい生活を維持することが焦点となります。新政あいち県議団は、これからもしっかりコロナ対策を議論してまいります。

「新政あいち県議団」33名 ONE TEAMで政策集団として取り組んでまいります。この国難を県民一体となって乗り切りましょう。